

学力・家庭的背景・地域 — JELS2003報告 —

○耳塚 寛明 (お茶の水女子大学)

この報告は、お茶の水女子大学 21 世紀 C O E プログラム「誕生から死までの人間発達科学」(平成 14 年度採択)の一環として実施された「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」(JELS2003, Japan Education Longitudinal Study 2003)の基礎年次調査に基づき、学力の規定要因、とりわけ家庭学習時間、通塾、家庭的背景の影響を明らかにしようとするものである。昨年度の報告「学力・学歴・進路」(諸田裕子と共同発表)では、JELS2003のうち、大都市近郊中都市である A エリア小学校 6 年生を対象とした分析結果を報告した。今回は、東北地方の小都市である C エリアおよび中学校に関するデータをも加えて、学力形成に関する地域的多様性を中心に議論する。

A JELS2003 の目的と概要 (省略)

B Wave 1 の設計と調査の概要

1) 設計

JELS2003 は 3 年目ごとに実施する縦断的調査研究であり、その基礎年次調査(Wave1)を 2003 ~ 2004 年にかけて実施した。Wave1 における調査対象コーホートは、小学校 3 年生、同 6 年生、中学校 3 年生、高等学校 3 年生。進路計画を明確にする観点から小、中、高それぞれの最終学年を対象として設定し、また初期学校生活の影響を明らかにするために質問紙調査が可能と考えられるもっとも早い学年である小 3 を対象に加えた。

2) 調査方法

- ①児童生徒調査 質問紙による集団自計式
- ②学力調査 国語、算数・数学
- ③保護者調査 (家庭的背景、しつけ、文化的環境、教育期待など)
- ④担任教員調査 (教授方法、進路指導)
- ⑤地域、学校の状況に関するヒアリング調査、資料蒐集

3) 調査エリアと回収状況

1. 調査エリア

JELS2003 は複数のエリア、対象について実施しているが、今回報告するのは、A エリアおよび C エリアの 2 地域に関する、児童生徒調査(高校を除く)、学力調査の結果である。

2. 調査時期

< A エリア > 2003 年 10 ~ 12 月実施。ただし、中 3 学力調査は 2004 年 1 ~ 3 月に実施。

< B エリア > 2004 年 11 月実施。

3. 回収数、回収率

表 I-1 調査の実施状況

A エリア		児童・生徒	
学年	配布数	回収数	回収率
小 3	1161	1118	96.3
小 6	1202	1164	96.8
中 3	1128	1057	93.7
高 3	1969	1438	73.0

- ・関東地方 人口約 25 万人
- ・産業大分類別就業人口 (H12 年度)
 - 第一次産業 0%
 - 第二次産業 約 35%
 - 第三次産業 約 65%
- ・保護者大卒率 父 39% 母 26%

C エリア		児童・生徒	
学年	配布数	回収数	回収率
小 3	935	921	98.5
小 6	974	962	98.8
中 3	1022	968	94.7
高 3	1194	1150	96.3

- ・東北地方 人口 9 万人弱
- ・産業大分類別就業人口 (H12 年度)
 - 第一次産業 約 10%
 - 第二次産業 約 30%
 - 第三次産業 約 60%
- ・保護者大卒率 父 24% 母 17%

(JELS2003)

2 エリアにおける、回収状況は表 I-1 のとおりである。児童生徒対象質問紙調査、学力調査ではそれぞれ若干の相違があるが、表は質問紙ベースの配布数、回収数、回収率を示した。

A エリアでは、約半数の小中学校を無作為

に抽出して対象とした。Cエリアは全校を対象とした当該学年悉皆調査である。

C 家庭的背景 変数の選択 (省略)

D 算数・数学 AT (アチーブメント・テスト) 通過率を従属変数とする重回帰分析

A, C 両エリアの各3コーホートについて、算数・数学 AT 通過率を従属変数とする重回帰分析を行った結果が表 I-2 である。

①調整済み R 二乗値は A エリアで相対的に大きい。C エリアでは学力を説明する別の変数を必要としている。

②小6では、両地域で共通して「父学歴」「家庭学習時間」の影響が大きい。A エリアでは「受験塾通塾」が重要であるのに対して C エリアでは有意ではない。

③中3では「父学歴」「受験塾通塾」が両エ

リアで重要である。これに加え、C エリアでは「家庭学習時間」の規定力が大きいのに対して、A エリアでは有意ではない。

④小3コーホートでは両エリアとも R 二乗値が小さいが、「父学歴」は共通して有意な影響を示している。

(参考文献)

耳塚寛明・金子真理子・諸田裕子・山田哲也 2002 「先鋭化する学力の二極分化」『論座』11月号: 212-227 朝日新聞社

耳塚寛明 2005 「なにが『学力』を決めるのか A エリア小6算数学力の規定要因分析」『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS 第4集 再分析論文集(1)』: 1-21 お茶の水女子大学

(本要旨における省略部分および D 以後の分析結果は、別途、当日配布します)

表 I-2 算数・数学 AT 通過率を従属変数とする重回帰分析結果

	Aエリア		Cエリア	
	β	有意確率	β	有意確率
中3 (定数)		0.000 ***		0.000 ***
性別ダミー	0.079	0.040 *	-0.014	0.664
家での学習時間・分	-0.024	0.539	0.121	0.000 ***
父大卒ダミー	0.186	0.000 ***	0.132	0.000 ***
受験塾ダミー	0.263	0.000 ***	0.117	0.001 **
補習塾ダミー	0.024	0.540	-0.046	0.168
博物館ダミー	0.215	0.000 ***	0.087	0.008 **
調整済み R 二乗値	0.184	0.000 ***	0.064	0.000 ***
小6 (定数)		0.000 ***		0.000 ***
性別ダミー	0.088	0.001 **	0.105	0.001 **
家での学習時間・分	0.221	0.000 ***	0.097	0.003 **
父大卒ダミー	0.184	0.000 ***	0.153	0.000 ***
受験塾ダミー	0.261	0.000 ***	0.026	0.437
補習塾ダミー	0.059	0.021 *	0.005	0.881
博物館ダミー	0.115	0.000 ***	0.079	0.018 *
親勉強ダミー	0.031	0.253	0.011	0.729
調整済み R 二乗値	0.290	0.000 ***	0.054	0.000 ***
小3 (定数)		0.000 ***		0.000 ***
性別ダミー	-0.015	0.627	-0.016	0.624
家での学習時間・分	0.064	0.037 *	0.064	0.053
父大卒ダミー	0.132	0.000 ***	0.102	0.002 **
受験塾ダミー	0.066	0.033 *	-0.004	0.903
補習塾ダミー	-0.077	0.011 *	-0.036	0.284
博物館ダミー	0.088	0.006 **	0.049	0.149
親勉強ダミー	-0.052	0.111	0.082	0.015 *
調整済み R 二乗値	0.038	0.000 ***	0.025	0.000 ***

*** P<.001 従属変数 算数・数学 AT 通過率

** P<.01

* P<.05

「博物館ダミー」家の人に博物館や美術館に連れて行ってもらったことがある

「親勉強ダミー」この1ヶ月間にお父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある